

6 Banach space = 於ける 二次 Operator = ツイテ

陸大 清水辰次郎

(10月26日 21)

Banach 空間 (Complete normed linear space) なる linear operator の性質の著しい研究せられたるは、更に高次 operator の解析的 operator = 因て、Banach 門下及びその門下於て幾つかの研究がなされ、函数空間論的研究へより発展せられた。

次 = 二次音次多項式 Operator = 因て、性質の著しい E, E' = 複素数 α, β, \dots の $E \times E$ 上の operator $p(x)$ の空間 E 上の空間 $E' =$ 空間 α operator $p(x)$ 。

定義 $p(x, \alpha y) = \alpha p_1(x, y) + \alpha \beta p_2(x, y) + \beta p(x, y)$ 満足する operator $p(x)$ の二次音次多項式 operator $p(x)$ である。此所 $p(x, y)$ 等 $E \times E$ 上の operator $p(x)$ $p(x, y)$ 等連続性の仮定せられた。

先、定義より $\alpha = 1, \beta = 0$ とき $p_1(x, y) \equiv p(x)$
 $\alpha = 0, \beta = 1$ とき $p_2(x, y) \equiv p(y)$
 $\alpha = 1, \beta = 1$ とき $p_2(x, y) \equiv p_2(y, x)$

これより知る。

定義より明らかなる $p(x + \alpha y)$ の $\alpha =$ 同様に連続する

次 =

$$\lim_{\tau \rightarrow 0} \frac{p(x + \tau y) - p(x)}{\tau} = p_2(x, y)$$

$$y = \alpha \eta_1 + \beta \eta_2 \quad \tau \neq 0, \quad \xi = \tau \alpha, \quad \eta = \tau \beta \quad \tau \neq 0 \Rightarrow$$

$$\begin{aligned}
& \lim_{\tau \rightarrow 0} \frac{p(x + \xi y_1 + \eta y_2) - p(x)}{\tau} \\
&= \lim_{\tau \rightarrow 0} \frac{p(x + \xi y_1 + \eta y_2) - p(x + \eta y_2) + p(x + \eta y_2) - p(x)}{\tau} \\
&= \alpha p_2(x, y_1) + \beta p_2(x, y_2)
\end{aligned}$$

以上、 $p(x + \alpha y)$ が $\alpha \rightarrow 0$ 時に連続となることより、 $p(x)$ の連続性を仮定した。

依りて

$$p_2(x, \alpha y_1 + \beta y_2) = \alpha p_2(x, y_1) + \beta p_2(x, y_2)$$

即ち $p_2(x, y)$ の x 及び $y = 0$ での一次斉次 operator である。
依りて勿論

$$p_2(x, 0) = p_2(0, y) = 0$$

定理 1. 二次斉次多項式 operator が連続ならば有界である。

($x = 0$ ならば連続ならば有界)

依りて有界ならば $M_n \rightarrow \infty$

$$\|p(x_n)\| > M_n \|x_n\|^2 \text{ ならば}$$

$$y_n = \frac{1}{\sqrt{M_n} \|x_n\|} x_n \text{ ならば } \|y_n\| \rightarrow 0$$

$$\therefore p(y_n) = \frac{1}{M_n \|x_n\|} p(x_n) > 1$$

然るに $x = 0$ ならば $p(x)$ の連続性故

$$p(y_n) \rightarrow p(0) = 0$$

定理 2. 二次斉次多項式 operator が有界ならば連続

先ず $x_n \rightarrow 0$ なる系列 x_n を考へる

有界な故 $\|p(x_n)\| < M \|x_n\|^2$

依りて $\|p(x_n) - 0\| < M \|x_n\|^2 \rightarrow 0$

即ち有界ならば $x = 0$ ならば連続となる

一方二次齊次多項式 operator

$$p(x+y) = p(x) + p_2(x, y) + p(y)$$

ト書き表ハサレルカラ, $y_n \rightarrow 0$ ナル系列 $y_n =$ 対シ $p(y) = 0$
 $=$ 連続且 $p(0) = 0$ ナル故, 先ツ $p(y_n) \rightarrow 0$

$p_2(x, y)$ ナ $x, y =$ 関シ additive ナルヲ知ルベシカ

$$p_2(x, y) = p(x+y) - p(x) - p(y)$$

カラ有界, 即チ

$$\|p_2(x, y)\| < M \cdot \|x\| \cdot \|y\|$$

$$\left(\begin{array}{l} \because p_2\left(\frac{x}{\|x\|}, \frac{y}{\|y\|}\right) = p\left(\frac{x}{\|x\|} + \frac{y}{\|y\|}\right) - p\left(\frac{x}{\|x\|}\right) - p\left(\frac{y}{\|y\|}\right) \\ p(x), \text{ 有界カラ右辺 } \therefore M = \text{上界セラル.} \end{array} \right)$$

x ナ一定トシテ考ヘレバ $p_2(x, y)$ ナ $y =$ 関シ連続ナル故

$$\lim_{y_n \rightarrow 0} p_2(x, y_n) = p_2(x, 0) = 0$$

依ツテ

$$p(x+y_n) = p(x) + p_2(x, y_n) + p(y_n)$$

ヨリ

$$p(x+y_n) \rightarrow p(x)$$

即チ $p(x)$ ナ連続ナル, 以上ノ証明ニテ明カナリ

定理 二次齊次多項式 operator ナ 実ニテ連続ナルバ

スベテ, 実ニテ連続ナル.

附記 $p(\alpha x + \beta y) = \alpha^n p_1(x, y) + \alpha^{n-1} \beta p_2(x, y) + \dots + \beta^n p_{nn}(x, y)$

ヲ以ツテ n 次齊次多項式 operator ヲ定義スレバ

$$p_1(x, y) \equiv p(x),$$

$$p_{nn}(x, y) \equiv p(y).$$

且, $p_2(x, y), p_3(x, y), \dots, p_n(x, y)$ ナ $x, y =$ 関シ一, 二, ..., $n-1$ 次

$\alpha = \text{deg}$ は $(n-1)$ 次, $(n-2)$ 次, \dots , 一次, operator 以外が示
 される. $p(x)$ が連続ならば, $p(x)$ は連続かつ有限.

従って $p(x+iy)$ は連続関数 $f(z)$ の Cauchy 積分表示
 が成り立つ.

$$p_j(x, y) = \frac{1}{2\pi i} \int_C \frac{p(x+iz)}{z^j} dz$$

加えて

$$(C, \gamma = 0 \text{ を中心とする円})$$

$$p_j(x, \frac{y}{\|y\|}) = \frac{1}{2\pi i} \int_C \frac{p(x + z \frac{y}{\|y\|})}{z^j} dz$$

かつ $p(x)$ が有界ならば

$$|p_j(x, \frac{y}{\|y\|})| \leq M \|y\|^{-j}$$

従って

$$\|p_j(x, y)\| \leq M \|y\|^{-j}$$

以上, 積分表示より

$$p_j(x, 0) = 0 \quad j=2, 3, \dots, n$$

従って

$$p(x+y_n) - p(x) = |z(x, y_n)| + \dots + |p_{n-1}(y_n)|$$

より明らか $y_n \rightarrow 0$ ならば

$$p(x+y_n) \rightarrow p(x)$$

即ち n 次有界多項式 operator は有界かつ連続である。

連続かつ有界ならば 一次 \Rightarrow 連続かつ有界

一次 \Rightarrow 連続ならば 一次 operator: 場合同様に示す

される

(以上)

